

寒の戻りはありますが、それでも日ごとに暖かさが増して、春に向かう日々。桜の蕾がふくらみを増していくことに、新たな希望のふくらみを重ねて感じます。今日は大阪市立淀中学校七八期生の卒業式。淀中学校にとって、一年で一番の「ハシの日」です。

ご来賓の皆様。胸を張り未来に向けて巣立ってゆく卒業生たちの門出。ご列席の皆様と共に祝っていただけること、誠にありがとうございます。今日、一五七名を加え、淀中学校の卒業生は二五七九七名になりました。歴史と伝統を感じます。皆様の大きな支えがあつてのことです。地域の皆様に支えていただける淀中学校であることが誇りです。篤く感謝とお礼を申しあげます。

卒業生の皆さん。先ほどの卒業証書授与。おめでとうという気持ちを込めて、みなさん一人一人の顔をみて卒業証書を手渡しました。それと共に、どんなことがあつたのだろう。どんな気持ちですごしたのだろう。皆さん一人一人の三年間に思いを馳せることになりました。

私は二年前に淀中学校に着任したので、皆さんが淀中学校に入学してきた三年前の姿は想像することしかできませんが、今よりも心身ともに頼りなく幼い姿であつたのだろうと思います。

そこから三年間。たくさんの授業と学校行事に取り組み、放課後や休日の部活動に邁進した人もたくさんいます。たくさんのかげがえのない時間を仲間と共有してきました。

「あんなこともあった」「こんなこともあった」

人を励ますこともあったでしょう。人に励まされることもあったはず。充実や達成、喜びを感じたこともあれば、挫折や苦しみ、悲しみを感じたこともあったはず。

思い出すだけで心が温まる「良い思い出」は支え励みとして、あまり思い出したくない「悪い思い出」は貴重な学びとして、どちらも、今と未来を生きる財産にしてほしいです。

「よい思い出」も「悪い思い出」も共に「大切な思い出」であることに間違いはなく、皆さんの今日までの成長の糧となったものだからです。

さて、卒業にあたり皆さんに、最後に伝えたいことは何だろうと毎年の卒業式を前にあらためて考えます。昔の偉人の格言なのか、それとも有名な詩の一節なのか。

今年もまた、あれこれと考えた末に、全校集会のお話で伝えたいことを、少し言葉を変えて繰り返し伝えることにしました。

今、私が本当に伝えたい、そして、皆さんに願うことだからです。

私は、新たな進路に巣立っていく皆さんに、「輝く春」を実現・獲得してほしいと強く願っています。まず、この春に。次に、一年後の春にも。さらに、毎年の春に。十年後の春にも。

「輝く春」というのは、抽象的な言い方ですが、もう少し言葉を足すと、春をひとつの区切りとして、皆さんが確かな成長を実現し、たくましく眩しく青年として自立して行ってほしいという願いです。

「輝く春」を実現・獲得するには、まず、「こうありたい」という強い気持ちが必要です。先日、全校集会で言葉を紹介しました。「意思あるところに道は拓く」です。

「輝く春」を実現・獲得するには、小さな一歩でも実際に行動を始めることが大切です。はるか遠くの目標もまず一歩を踏み出すことから。一歩を踏み出さなければ何も実現しません。これも言葉を紹介しました。「千里の道も一歩から」です。

「輝く春」を実現・獲得するには、努力を続けることが必要です。小さな努力でも続けることで大きな成果につながります。これも言葉を紹介しました。「継続は力なり」です。

そして、皆さんが確かな成長を実現し、たくましく眩しく青年として自立していくと共に育ててほしい意識があります。

それは、「あなたの所属するチームが、あなたに何をしてくれるか」ではなく、「あなたが、あなたの所属するチームに何ができるか」を言葉や行動の基準にする意識です。元は、アメリカ合衆国の伝説的な大統領であるケネディ大統領の言葉なのですが、社会で生きる人としての基本的な心の在り方を示す言葉だと思います。

さまざまな現状に不平や不満、批判ばかりを述べるのではなく、さまざまな現状を改善するために自分にできることは何かを考えよう。そのような心の在り方です。

あなたの所属するチームは学級であり、学年であり、学校であり、部活動のチームでもあります。家族であり、地域であり、大阪であり、日本でもあります。それらを支える自立した青年になってください。

最後になりましたが、保護者の皆様、今日は、お子様のご卒業おめでとうございます。お子様の胸を張り未来に向けて巣立ってゆく姿をご覧になり、大きな喜びと感動で胸をいっぱいにさめているのではないのでしょうか。心よりお祝い申し上げます。あわせて、これまで三年間の淀中学校に対する温かいご理解とご協力に、あらためて篤くお礼を申しあげます。ありがとうございました。

中学校を卒業したお子様は、思春期真っ只中から、自立した青年へ歩みを進めていきます。それでもきつと、まだまだ保護者の皆様の温かな愛情とまなざしを必要としていることだと思います。

あとしばらくは、変わらぬ愛情とつかず離れずほどよい距離感で、さらなるお子様の成長を見守ってください。

それでは、皆様の幸福を祈念し、卒業式の式辞とさせていただきます。

令和八年三月十三日

大阪市立淀中学校 校長 吉田健太